

# 越中一宮

第11号

平成18年9月13日

越中一宮高瀬神社

<http://www.takase.or.jp/>

撮影:南部写真館 南部 栄氏

## 宮司講話

## 「世に思うこと」

宮司 藤井秀弘

暑い夏の陽射しも九月に入ると少しづつ涼しくなってきました。「春夏秋冬」季節は確実に廻ってきますが同じ季節が廻ってきても「人の心」は同じではありません。去年と今年とでは人の心は異なります。毎年人の心が変わることこそは、心貧乏ということかもしれません。

戦前と戦後では人の心はもちろんだ徳観や倫理観、物心ともに価値観が大きく変わりました。戦後は「個人尊重」、「多様な価値観」、「輝かしい時代の到来」などという美辞麗句のもと、自分勝手に正当化し、利潤の追求に精を出しました。このような世相の中、無気力な若者が増え、現在はいつまでたつても親離れできない者や定職につかず、場当たりの仕事をして生活している若者など、以前では考えられない人たちが増えていきます。果たしてこれが個人尊重の多様な価値観なのでしょう。高度経済成長の時代、どこの家の父

も多忙な業務で家庭に帰れず、どこの家の母も外で働きたいと

不自由を嘆いたものでした。しかし、不満の中にあっても戦前の教育を受けた世代の父母はこの時代の変化に負けず、働き続けることの出来る「信念」や「心の芯」というものを持っていました。ところが、戦後の教育を受けた世代はどうでしょう。大切な「心の芯」が抜き取られ、その結果、家庭内暴力や不登校がおこり、最近では親子で殺しあうような事件を頻繁に起こしています。ご承知の通り、毎日のごとく新聞やテレビ、雑誌などに殺人、窃盗、詐欺、傷害事件の記事や放送を目にし、耳にします。他人事として傍観しているだけで良いのでしょうか。人々の心に潤いを取り戻し、心の文化ともいべき日本人の伝統的精神を回復させることが急務であり、その方策を考えなければならぬと思います。

新しいものの考え方は全て素

晴らしく、古いものの考え方は全てダメだと考えますと世の中は誤った方向に進み、決して幸福な社会にならないのではないのでしょうか。人は新しいものに興味を惹かれるものですし、古いものは忘れてしまいがちですが、古くても恒久不変の教えがありますし、新しくても時代にそぐわないものもあります。

神武天皇が即位され、日本という国が建国されて今年で二六六六年を迎えました。この間、日本人に相応しい見方、考え方が出来上がり、時代にあわせながら今日に至りました。国を想い、地域を想い、家を想い、自分以外のものも大切に考えてきました。今はどうでしょう。日本人自身が国や国民を破壊させようと活動しています。このまま年月が過ぎ行けば、日本という国は消滅してアメリカや中国の一つの州や県になってしまうかもしれません。今一度、日本人はどうあるべきか、そして自分自身はどうすべきか考えてみる必要があります。

時間の流れは、過去から現在へ、更に未来へと続いています。不変の教えは祖先から自分へ、そして子孫へと続かせなければなりません。神道に「中今」という言葉があります。自分の両親

や祖父母から受け継いだ教えを現在生きている自分が実践する。そしてそれを子どもや孫に教え、伝え継いでゆくこと。現在の自分が精一杯努力しないと祖先からの教えを守れないし、未来の子孫に引き継ぐことができないという責任の重い言葉です。少なくとも戦前の日本人は全員でこれを実践していました。それによって日本の社会は健全に保たれてきました。個人尊重の現在では親は親、子は子というふうになっており、この縦糸がズタズタに切れているように見えます。

これからは「自分のために世界はある」と思わずに、「世界をより良くするために自分は存在する」と考えて行動することが大切です。両親や祖父母から苦勞話などを聞いて、子どもや孫にそれを聞かせる。いっしょに考え、ともに行うことによつて「心の芯」が強くなり、私たちの住みよい社会が作られ、進むべき未来の姿が見えてくると思います。新聞の紙面が明るい記事で溢れるような社会が到来することを目指して日々の生活に励みましょう。



三年前、藤井宮司さんから高瀬神社の責任役員をやって欲しいとの要請があり、どのような責任がある役職か知らぬままに簡単な気持ちでお引き受けして今日に至り、現在は反省とともに氏子崇敬者をはじめ、関係各位にご迷惑にならないか困惑しながら務めさせていただいております。

藤井宮司家と当家とのご縁は、氏神社の宮司さんと氏子ということはもとより、私の父が前宮司秀直さんの小学校時代の担任であったこともあり、私も含めて親子共に二世代に亘りご指導とお付き合いをいただいております。

秀直さんが小学生の頃、悪さをした折に、私の父が「良い人間になれ」と泣きながら下駄で頭を殴られた。それによって自

分は真人間になったのだ。」と

いうお話を繰り返して何度も聞きました。この事については、先に出版された『神のまにまに・藤井秀直翁顕彰会刊（八十三頁）』に触れておられます。これは大袈裟で誇張されたお話だと思えますが、前宮司秀直さんは、その恩返しに「今度は私が貴方を指導する番だ。」と言って下さいます。藤井家を訪問する度に一般常識を含めてあらゆる事についてご指導を賜ることが出ました（例えば、私の孫の命名はすべて秀直さんのご指導によるものです）。

今年の八月六日（日）に「富山県神社総代会・東西砺波支部総会」の折、(株)ゴールドウイン 西田東作会長の講演がありまして、その中で前宮司秀直さんの思い出と素晴らしい人間性をお聞かせ

いただきました。「人間は目に見えないものを信じないが、見えないものを信じる事こそ大切なのだと教えていただきました。」と、秀直さんのお話しを交えて、世の中の道理や逸話の幾つかを紹介されました。深く感じる事が多々ありました。

我が国は戦後六十年を経過した現在、平和な世の中ではありませんが、世相や流れが混沌としていきます。道徳的な思想や精神的な基盤が揺らぎ、段々と悪化しているように思われます。悪い意味での個人主義思想を背景に、家族主義を含めて歴史的な精神基盤が崩壊し、人間の生命をも軽んじるようになり、最近の凶悪犯罪の多発と共に世相の乱れが大変憂慮される事態となっております。

国の基本は教育にあります。正しい教育が行われない国は滅びゆく運命です。戦前の教育を受けた私たちの考え方や思想が古いと最近の若い人たちから批判されますが、本当に戦前の教育は悪いことばかりだったのでしようか。現行の憲法や教育基

本法は本当に正しいのでしょうか。そして、今のまま放置されても良いものでしょうか。これらの改正に向けた良識ある国民の強い要請にもかかわらず「愛国心」や「宗教的情操の涵養」など、真の教育改革に必要な事柄などが軽視されているように思われ

てなりません。「父母に孝に、兄弟に友に、夫婦相和し、朋友相信じ・・・」。戦前の道徳規範となった「教育勅語」の一文です。これの復活・活用が現在の日本を救うために必要であると強く思います。自分の国を愛し、親に孝行することが何故悪いのでしょうか。疑問です。

個人的なことになりますが、私の家庭は両親から「神仏を崇拜する教育」を子供の頃からしっかりと指導されております。今も厳重に継続されております。従いまして朝起きたらその日のスタートは神棚へのお参りから始まり、仏壇へのお参りを済ませば食事をするという出来不出来という躰になっております。現在、核家族化が進む世

あって、我が家は幸いなことに私達夫婦と若夫婦、孫三人の七人家族という構成でありまして、毎日の孫たちとの会話が何よりの楽しみであり、これが私達老夫婦の生き甲斐にもなっております。

人生を左右する人との出会いや先輩諸氏からの教えを受ける機会が多少でもあれば自ずと正しい生活や行動が出来るようになりますと思います。また、私達が小さい頃から大切にしてきた生活規範（道徳など）を今一度評価し直して、次世代へ継承することが我々に与えられた任務だと考えます。世間の為になること、感謝される行いをすれば、必ずや報われることを信じつつ、神仏を崇拝すると共に、戦後米国の指導により導入された憲法や教育基本法を一日も早く改正して本来の日本の姿に復帰させなければならぬと強く思います。

終わりに、日頃から氏神様を崇拝し、敬神の念厚き皆様方の今後益々のご多幸とご健勝を深くお祈り致します。

(センダン電子(株)代表取締役会長)

## 「一ノ宮めぐり」をしてみませんか？

「一ノ宮」は全国に約一〇〇社あります。平安時代、各地域で古くから崇敬を集め、神位も高く、由緒正しき神社が「一ノ宮」としてさだめられました。越中国一ノ宮は当神社であります。

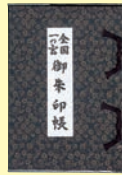
「御朱印」はこのような神社を参拝し、各神社にお祀りされている大神様の御神徳をいただくためのものです。時間をかけて自分流に全国の一ノ宮を巡ってみてはいかがでしょう。きっと大神様から尊い御力をいただけることでしょう。



ガイドブック  
一二〇〇円



御朱印帳(小)  
一〇〇〇円



御朱印帳(大)  
三〇〇〇円

## 高瀬ゆかりの地を訪ねて

### 「高瀬神社 駅跡」

石動駅から福野駅を経由し庄川町（開業時は青島駅）を結ぶ全長約二〇キロの鉄道路線「加越線」がありました。

当神社への参拝者の輸送や砺波平野の各地からの米の集散やダム建設の資材運搬によって一時活況を呈していましたが、不況も加わって営業成績は悪化の一途をたどりました。その後も様々な合理化が為されたが、昭和四十七年九月十五日を以って全線が廃止されました。

現在は自家用車での参拝が大多数ですが、かつては満員の乗客を乗せた列車が高瀬神社駅（開業時：高瀬村駅）を賑わせていました。

その駅舎の傍らに自然石の道標が立っています。明治二〇年頃の建立といわれ、「一宮高瀬神社」と刻まれています。



加越線の廃線までは、「裏参道」として本殿の北東に位置する相撲場まで通じていました。

現在は加越能鉄道加越線としてバスに代替されましたが、旧線のほぼ全線が自転車専用道路となっており、通学する生徒や近隣住民の大切な道となっています。



(写真提供)  
井波町ボランティアグループ  
草の根サークル編  
「写真が語る井波の近代」

祭事録

夏越の大祓

半年の罪・穢を祓い、残りの半年を清々しく過ごす「夏越の大祓」が、去る六月三〇日午後三時より氏子・崇敬者約一五〇名参列のもと齋行されました。

参列者は「人形」に罪穢を託し、「茅舟」に納めました。祓いをうけ、次々に「茅の輪」をくぐり心身を清めたのち、「茅舟」に収められた「人形」を、大川道に祓い流しました。



除熱祭

去る七月二十二日、日照りによる災害なく農作物が生育するよう祈願する「除熱祭」が齋行されました。

御本殿での祭典につづき神職・巫女が猷穀田に赴き順調に成育する水稻を祓い清め、御幣をたて御加護を祈念しました。

また、夕刻には「熱おくり太鼓」が氏子により執り行われ、太鼓の音色を町内に響かせました。



人形感謝祭と人形展

「第七回人形感謝祭」が去る七月十六日齋行されました。特設の納め所には約二五〇〇体の「日本人形」や「ぬいぐるみ」が持ち込まれ、参列者一同感謝の誠心を捧げました。

「人形感謝祭」にあわせ七月十五日より十七日まで「第六回人形展」一期一会「創作人形」といけばなのかたらい」が開催されました。

各作家の手による木彫や和紙・古布などをもちいた創作人形約一〇〇点が展示されたほか、KNBラ ジオ相本 芳彦氏の トークショーも行われ、楽しいひとときを過ごしました。また



杜のにざわい

昨年につづき、いけばな「秀抱会」により会場が装飾され、人形に華をそえました。



▽出品作家

- 牛島 辰馬 (庄川)
- 阿部 達也 (富山)
- 八木 裕子 (富山)
- 池田由美子 (砺波)
- 荒井 恒雄 (井波)
- 飛驒山静恵 (八尾)
- 松本 昌子 (利賀)
- 福島まゆみ (金沢)
- 安達 陽子 (砺波)
- つるもりひろこ (石川)
- 大野 秋次 (井波)
- 坪川瀬都子 (氷見)
- 野村 幸子 (井波)
- 谷口 淳一 (滑川)
- 飯野 輝明 (平)

▽装飾

「秀抱会」

会長 梅崎秀鈴 (庄川)  
※順不同、敬称略

# 参拜日誌抄

(平成一八年六月〜八月) (敬称略)

## 「六月」

- 四日 神社庁東西砺波支部例会
- 五日 伊勢國一宮椿大神社  
宮司 山本行恭 以下職員一八名  
岩手県神社庁紫波支部  
支部長 生内敬二 以下五八名  
六日 三輪明神広島分祠 (広島市)  
神道婦人部 梶本康子 他三二名  
八日 氏子清掃奉仕 (総出)  
一三日 立正佼成会 (清掃奉仕)  
一四日 伊勢國一宮椿大神社  
権宮司 川島敏孝  
以下職員一八名  
一六日 中野第一希生会 (砺波市) 二七名  
二四日 高瀬遺跡菖蒲まつり実行委員会  
二〇名  
二八日 櫻山八幡宮 宮司 谷田勉  
以下総代三〇名  
三〇日 高瀬神社稻荷講商売繁盛祈願祭

## 「七月」

- 一日 チューエツパッケージ 四名  
タカハタ工業(株) 八〇名  
二日 利奈美雅楽会 三五名  
三日 川田工業(株) 二七名  
建設業労働災害防止協会  
砺波分会 六二名  
五日 (社)富山県労働基準協会 八五名  
砺波高校野球部 三五名  
七日 神社庁東西砺波支部役員会  
中村工務店協力会 二〇名  
一三日 立正佼成会 (清掃奉仕)  
一六日 大神神社 宮司 鈴木寛治  
以下全国一の宮巡拝会八七名  
一七日 神社庁東西砺波支部例会  
神社総代会東西砺波支部役員会  
三一日 全国一の宮巡拝会 会長 関口行弘

## 「八月」

- 一日 日本移動教室協会理事長 入江眞  
六日 神社総代会東西砺波支部  
「国家隆昌祈願祭」

二五日

富山県神社庁研修会

二六日

富山県神社庁総会

二七日

二見興玉神社

三一日

富山県ニット工業センター  
染色センター 所長 坪坂鏡一  
(株)ヴィオレッタ  
代表取締役社長 七里隆雄

## 「奉納」

○金一封

南砺市高瀬 (大宮司)

豊川 善治

平成十八年八月八日

○創作人形



氷見市朝日ケ丘

坪川 瀬都子

平成十八年七月十七日

## ◆七五三詣の衣裳・美容・写真について

お子様の衣裳(和装・洋装)レンタル及びご家族様のお衣裳レンタル、着付け、記念写真撮影を承りますので、社務所へお気軽にお問い合わせ下さい。

## ◆七五三内見会

十月十四日(土)

十五日(日)

午後一時から午後五時  
南部写真館・アマノ衣裳店の協力により、写真・衣裳の内見会を開催いたします。

是非この機会をご利用くださいませう、お待ちしております。

担当 黒田



### 平成十九年「初詣献灯」の御案内

当神社では「初詣献灯」を実施致しております。本行事は、初詣期間中に正参道両側に「提灯」を掲げ、新年も輝かしい一年となるよう、尚一層の御神徳を授けて戴くことを願ひ奉納するものです。

一、「初詣献灯」は正月七日まで、境内等参拝者道筋に献灯いたします。

一、「初詣献灯」は、それぞれ正面に希望の芳名（会社・氏名等）を記入いたします。

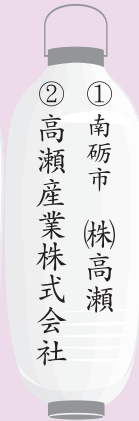
一、献灯者の家内安全・商売繁盛の祈願祭を奉仕いたします。

一、献灯初穂料は、一基につき 金壹萬円御志納願います。

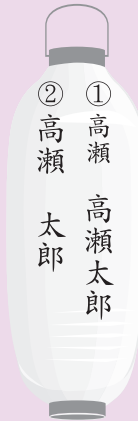
一、申込締切 十一月十五日までにお申込下さい。

※記載芳名 例（約八文字）

#### 一、会社



#### 二、個人



### 御案内

#### 「七五三詣」

本年は次の通りです

○七歳（女子） 平成十二年生

○五歳（男子） 平成十四年生

○三歳（男女） 平成十六年生

※十月一日より十一月末日まで、毎日午前八時三〇分より午後四時三〇分まで随時受付しております。

祭典・結婚式等でご奉仕できない時間帯もありますので、社務所までおたずね下さい。

尚、十一月二十三日は新嘗祭斎行のため午後一時より受付いたします。

#### 「第三三回奉茶式」

十月八日（日）

午前十一時齋行

裏千家 金澤宗維業躰ご奉仕

（呈茶席・二席）

午前八時～午後三時受付

（主催）

高瀬神社献茶奉賛会

（濃茶席）

裏千家流静和会

（薄茶席）

裏千家流となみ同好会

（点心席）

裏千家流南砺同好会

（茶券）

一枚三千円（短冊・点心付）

#### 編集後記

先日、神道青年全国協議会主催の「新潟県中越地震復興支援―神事芸能全国大会」に参加する機会がありました。震災から二年を経過した現在も、仮設住宅に約六千人が避難生活をされており、おられる状況を目の当たりにし、恵まれた環境で生活している私にとりまして、何とも言いようが無い複雑な心境で帰ってまいりました。

大神様の大威稜のもと、一日も早い完全復興を御祈念申し上げます。

本号に責任役員の武田修氏よりご寄稿を頂戴しました。厚く御礼を申し上げます。

#### 【表紙写真】

「社叢と御神山」  
御神山「牛嶽」（海拔九八七米）の山頂には奥宮「牛嶽神社」が鎮まっています。

発行日 平成十八年九月十三日

発行所

越中一宮 高瀬神社社務所

〒933-0252  
富山県南砺市高瀬二九一

TEL 0763-81-0932  
FAX 0763-81-3204

編集人 浦

泰宏

印刷所

牧印刷株式会社



美しく息づく神の社で  
ふたり心を結びあう

# ふたりらしさを大切にした披露宴

鮮やかで  
あたたかな  
おもてなし



## 大切な衣類は、 早めのクリーニングを！

総合ドライクリーニング・一般リネンサプライ

### (株) 林クリーニング

南砺市本町(井波) TEL (0763) 82-0289

